

## 当院における持続皮下グルコース検査業務への取り組み

◎吉田 雅子<sup>1)</sup>、根本 真奈<sup>1)</sup>、渡辺 夏希<sup>1)</sup>、今野 淳子<sup>1)</sup>、本田 めぐみ<sup>1)</sup>、鈴木 恵美子<sup>1)</sup>、荒川 英裕<sup>1)</sup>、渡辺 隆幸<sup>1)</sup>  
一般財団法人 太田総合病院附属太田西ノ内病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では2018年よりタスク・シフト/シェア業務の一つである持続皮下グルコース検査（以下CGM）に取り組んできた。今回、この5年間の臨床検査部の活動内容について報告する。

【CGM導入および5年間の活動】2018年「FreeStyle リブレ」、「FreeStyle リブレ Pro」を導入。準備として①知識の共有：CGMの基礎、測定方法等の勉強会の企画・開催。説明用資料、マニュアル作成。担当技師の育成は糖尿病療養指導士を取得した技師が指導。②体制づくり：看護部・薬剤部・事務部等と役割分担・物品管理・保険点数等の協議。医師とCGM管理方法（SMBGとの使い分け、測定回数、緊急時の対応、解析データのパターン等）の確認を行い、指示書および手技評価表を作成した。2021年インターネット解析サービス「リブレ View」・2022年アプリ「リブレ Link」の活用、インターネット環境の準備を行った。2023年にはrtCGM「DexcomG6」の導入及びアプリ「G6」「Clarity」の活用を開始した。

【業務内容】CGM関連説明（測定手技や血糖管理、同意書

等）は、外来は随時、病棟は予約制にて依頼され対応している。データ解析は外来受診時の待ち時間に行い、結果の電子カルテへの取り込みも行っている。その際、患者に測定時の不具合等の有無を確認、連絡票を用い情報を看護師・医師と共有している。他にもセンサー貼付け・機器やセンサー等のトラブルの相談対応も行っている。

【現状】2023年10月時点のCGM導入数は479人、うちスマートフォンアプリ導入数は51人である。データ解析は今年度の月平均は164.6件と増加傾向にある。

【課題及びまとめ】今後はアプリ活用の拡大やデータ解析の効率化を図っていきたい。アプリ導入は設定手順の複雑さや対応機種制限、データ解析はシステム毎の運用が異なる点など問題もあるが、マニュアル等の整備を行い共通の認識の下、業務に当たれるよう努めていきたい。CGM関連業務は常に情報を収集し適切な運用方法を考案、発信していく必要がある。チーム医療における臨床検査技師の存在意義を示すためにもタスク・シフト/シェア業務の一環として活動していきたい。連絡先 024-925-1188